題材名・単元名	学部	授業名（主たる教科領域）	授業者
劇遊び「おおさむこさむ」	小	グループ学習 高学年ビーバー （国語）	

＜ねらい＞
・お話に沿った活動（そり遊び、かき氷づくり、せりふを言うなど）を通して、ストーリーや各場面を楽しむ。
・ルールを守って、そり遊びやかき氷遊びに取り組む。

学習内容	学習活動	指導上の留意点・準備物
１．あいさつ・呼名	・自分の名前を呼ばれたら返事をする。	・友達の名前や教師の名前を尋ね、メンバーを意識させる。
２．手遊び 「♪おちたおちた」	・落ちてくる物をイメージしながら、いろいろなしぐさをする。 ・りんご　→両手を前に出す ・げんこつ→頭を押さえる ・かみなり→両手でおへそを押さえる	・具体物やイラストを見せながら身振りを伝える。慣れてきたら、言葉を先に言うようにし、模倣だけでなく自分で考えさせるようにする。
３．パネルシアター 『おおさむこさむ』	・パネルシアターに気持ちを向けて見聞きする。	・興味が引けるように、やりとりしながら話を進める。慣れてきたら児童に操作してもらうところを取り入れる。
４．劇遊び 「おおさむこさむ」 ①マント、水筒を着ける	・全員が話と同じようにマントと水筒を身につける。 ・マントのボタンを自分で留め、水筒の筒の中に、お茶に見立てた布を入れる。	・ボタンは留めやすいように大きな物にする。
②そり遊び	・見本を見てから、一人ずつそりで斜面を滑る。 ・手を上げたり「はい」と言ったりして、したい気持ちを伝える。 ・「３，２，１」のかけ声をみんなでかけて合ってから滑る。	・おおさむ役の教師が登場し、そり遊びに誘う。 ・「次にしたい人？」と尋ねて、「はい」と答えた人から滑ることを伝える。 ・２回ずつ滑るようにする。
③かき氷作り	・見本の後に、２人ずつ前に出て作る。 器に綿を入れる。 →シロップの色を選ぶ。 →毛糸を端から取り出し、シロップをかけるイメージで綿の上にかける。	・４種類のシロップ表の中から好きな味を選ばせる。 ・全員が作ってから、みんなで「いただきます」と言って、食べるまねをする。
④「ゆきぼうず」とのやりとり	・ゆきぼうずが一人ずつ前に連れていきやりとりする。	・おおさむ役の教師がゆきぼうずの面に付け替えて、変身する。

風→お茶かける	・ゆきぼうず「さぁ、寒いと言え！」 「寒いと言って凍ってしまえ」 →「さむいって、いっちゃダメ！」 →水筒からお茶の布を取り出して、ゆきぼうずにかける。 ・一人ずつやりとりできたら、お茶の布を拾って、もう一度全員で一斉にゆきぼうずにかける。 ・「やったー」とみんなで喜んで終わる。 ・マントと水筒をはずし、前のかごにそれぞれ分けて入れる。	・大うちわで風をあてながら、一人ずつ前に連れていきやりとりをする。 ・お茶の布をかけられたゆきぼうずは、「あっちっち」「まいった」と言って教室から逃げていく。 ・ゆきぼうずを倒したこと、「寒いって言っちゃダメ」の台詞を言えたことで凍らされなかったことを確認する。
5．あいさつ	・授業で頑張ったことを振り返り、みんなで姿勢を正してあいさつをする。	・児童の頑張った様子を伝える。 ・授業の終わりを意識させる。

＜内容（工夫点など）＞

- 動きがないと注目しにくい児童の実態から、絵本をパネルシアターに作りかえ、させたい活動や注目させたい場面を強調して伝えた。
- お話と同じ持ち物(マント、水筒)を取り入れることで、お話の世界感に入ることを感じさせるようにした。
- 時間の都合、お話の①前半部分だけ、②後半部分だけ、③全体を通して、と場面を分けて取り組んだ。

＜良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）＞

- あえて水筒にお茶の布を自分たちで入れさせたことで、お茶を意識でき、水筒から飲むまねをして楽しむ児童がいた。
- 場面を分けて取り組んだことで活動内容に見通しがもて、全体を通してするときに自分から取り組んだり、台詞を覚えて言ったりする様子が見られた。
- かき氷のシロップの毛糸を容器から取り出すとき、蓋から引っ張り出して出そうとしたが毛糸が絡まって上手くいかなかった。絡まらないようにできればよかった。